

# 「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）

藤井 兼芳（中之島図書館）

志保田 務（桃山学院大学）

## はじめに

大阪府立中之島図書館（以後、中之島図書館）の中にあった食堂が、採算悪化により 2005 年 3 月末に閉鎖し、食堂跡の空間は、物置、寄贈資料の整理作業場所、館内見学時の説明会場程度に使用されるものとなった。ただ、地味ながらその活性化は図られ、たとえば、同時期（同年 4 月）大阪府立大学と統合再編した大阪女子大学の図書館で使用していた椅子 40 脚を受け入れ、廃止の決まった大阪府立文化情報センターからパネル・会議机などを貰い受け、旧食堂用の旧テーブル・椅子と入れ替え、さらに旧厨房を隠すカーテンをつけることなどがなされていた。

しかし、残存の厨房、老朽化した壁や照明は、公開利用に不向きだった。やがて、大阪府の行う業務監査で、この施設の有効活用が問われた。そこで、予算を遣り繰りして厨房設備を撤去、照明設備、天井、壁の塗装を一新した。また、2009 年 3 月には、折り畳み式の長机を新規購入した。内装的には改良されたが、機能性で問題を残した。というのは、閲覧者がこの部屋に入るためには、通路からいったん階段を降り、男子トイレの入り口に至り、その左側の階段を再び上がるという不便な動線のままであった。この階段を上がって入室すると、部屋の中央に到達する。合計でも 30 人（席）の収容にとどまるこの部屋は、階段・通路で分断される室内構造となっており、大規模な講演会には不向きである。そこで、この「食堂跡」は小会合、勉強会などに用いられることとなり、「多目的室」、「ふれあいルーム」へと名称を変更した。（なお、この「ふれあいルーム」は耐震工事期間中の 2013 年 3 月に「自習室」となり、2015 年 12 月以降は「書庫 4-2」となっている。）

「図書館を学ぶ相互講座」は上記の設備条件に適う規模のものであったが、無論、この集会の概要が、次項 1 で詳説する中之島図書館の設ける条件を満たすものでなければならなかった。

## 1. 図書館を学ぶ相互講座の開始

食堂跡地の有効利用を考える中で、中之島図書館の主たるサービスである、大阪資料・古典籍、ビジネス支援関連の催しを計画・実施するのは本来業務でもあるので当然のこととして、外部と協働していくことについて 3 つの思惑があった。(1) 中之島図書館に利用できるスペースがあることを知ってもらうこと、(2) このスペースを使った事業参加者に、図書館利用者になってもらうこと、(3) 口コミで中之島図書館の PR をしてもらうことであった。ただし、呼びかけをすることもできず、上記の思惑を広く周知することは無理と考えられた。そこで、当面は図書館全般についての定期的な勉強会を、予算の裏付けがなかったために無料で試行していただくことが提案された。

結果として、3 つの条件付きで、大筋認められた。(1) 図書館関連の定期的な勉強会であること

(大阪資料・古典籍、ビジネス支援サービスにとらわれなくてもよいが、時々テーマとして取り上げてほしい。人的協力もする)、(2) 誰もが参加できること(図書館関連団体の会員でなくても、関心があれば誰でも)、(3) 参加者に対価を求めないこと(図書館は主催者に会場・機器を無償提供、配付資料印刷・広報、などの協力を行う)である。いくつかの個人・団体に打診したが、図書館の開館時間内という利用時間の制限、定期的な実施、会員限定などの問題もあり、かなわず、かろうじて開催予定ができたのは「図書館を学ぶ相互講座」(以後、相互講座)と「児童図書館研究会」であった。

2009年4月9日の相互講座第1回開催チラシには、基幹構成員として、杉本節子：相愛大学准教授、志保田務：放送大学客員教授、佐藤毅彦：甲南女子大学教授、杉山誠司：日本福祉大学講師、谷本達哉：羽衣国際大学准教授、前川和子：大阪大谷大学准教授、本山晶子：桃山学院大学講師(※肩書はいずれも当時)が記され、開催にあたっての趣旨「「図書館」に関する知識を、共に学習し、相互に深めようとする連続講座を行います。図書館学教員、図書館員を対象としていますが、図書館活動に関心をお持ちであれば、自由に参加していただくことができます。無料です。司書資格や単位の修得等とは無関係の講座です。」も併せて記されている。この趣旨は現在も踏襲されている。

ともあれ、2009年4月9日より、相互講座は、主催：図書館を学ぶ相互講座 協力：大阪府立中之島図書館として開始。出席は8名(志保田務、丸本郁子(大阪女学院大)、前川和子、杉本節子、田山健二(図書館流通センター)、井上祐子(元夕陽丘高)、岩崎秀・藤井兼芳(中之島図書館))で、隆琦大我(おもきひろかず)中之島図書館長から祝辞があった。

※開始からの記録を以下に記した。表の、左より2列目は実施月日と曜日、3列目はテーマと発表者(発表者等の所属は当時)、一番右端の列は、参加者数を示す。

平成21年度(2009年度)		図書館を学ぶ相互講座 実施記録	協力：大阪府立中之島図書館
1	4/9(木)	「図書館を学ぶ中之島」発起。 2009年度計画説明／志保田務(講座主催者・図書館情報学博士)	8
2	4/23(木)	情報化社会と図書館の情報サービス／志保田務	9
3	5/7(木)	図書館法と司書養成科目の一新／志保田務	6
4	6/25(木)	司書教諭科目とテキストをめぐる：「学校経営と図書館」「学校指導と学校図書館」を中心に／永井悦重(阪南大非常勤講師)	17
5	7/16(木)	図書館サービスと経営 常世田良(日本図書館協会理事・元浦安市立図書館長)	20
6	7/23(木)	学術情報と情報検索：JDream IIを活用した図書館における情報検索 伊藤祥(科学技術振興機構：JST 係長)	9

7	8/12 (水)	情報資源組織化の実践 1 (民間 MARK 民間書誌データベースの活用をはかる/安川恵美 (桃山学院大学司書講習講師・株式会社図書館流通センターデータ部)	7
8	8/27 (木)	情報資源組織化の構造と資料組織演習 (目録) の改革 杉山誠司 (日本福祉大学講師)	11
9	9/9 (水)	情報資源組織化の実践 2 (目録法): BIBLAS 演習システムを用いての授業計画と実践例/杉本節子 (相愛大学准教授)	10
10	9/24 (木)	図書館情報技術論をめぐって 1 阪下紀子 (大阪成蹊短期大学講師・大阪大谷大学講師)	7
11	10/7 (水)	図書館情報技術論をめぐって 2/志保田務	8
12	10/22 (木)	図書・図書館史を学ぶ: e-ラーニングを軸に 阪田蓉子 (元明治大学教授)	9
13	11/19 (木)	情報資源組織論の構造 (情報資源組織論構想) /志保田務	8
14	11/26 (木)	情報資源組織化の実践 3: 情報検索、主題検索 前川和子 (大阪大谷大学准教授)	10
15	12/24 (木)	「利用者の要求にこたえること」について 佐藤毅彦 (甲南女子大学教授)	12
16	1/14 (木)	図書館利用、支援のチャレンジ/志保田務	7
17	1/28 (木)	パスファインダーを考える/坂本恭子 (大阪女学院図書館副館長)	14
18	2/10 (水)	中之島図書館の地域資料サービスについて 宇円田陽子 (中之島図書館・大阪資料古典籍課)	16
19	2/18 (木)	中之島図書館のビジネス支援サービスについて 高萩綾子 (中之島図書館・ビジネス支援課)	12
20	3/10 (水)	コミュニケーションと図書館の活用: 大阪大谷大学の図書館学生インストラクター/前川和子	11
21	3/25 (木)	図書館活用の達人への道/志保田務	16
出席者合計 227 名			

平成 22 年度 (2010 年度) 図書館を学ぶ相互講座		協力: 大阪府立中之島図書館	
1	4/15 (木)	図書館を相互に学ぶ: 1 年間の収穫と新年度の展望 志保田務 (図書館情報学博士)	11

2	5/1 (土)	歴史の中の中の島図書館／藤井兼芳 (中之島図書館)	8
3	5/13 (木)	図書館法と司書養成 (文部省令科目 2010 年の展望) / 志保田務	8
4	5/29 (土)	情報化社会における図書館司書 : 1990 年代米国カリフォルニア州に起こった司書再教育ムーブメント 前川和子 (大阪大谷大学)	11
5	6/17 (木)	図書館業務における IC タグ導入 / 楠本昌信 (大東市立西部図書館長)	22
6	6/26 (土)	「アメリカ学校図書館基準」を考える 足立正治 (元甲南高等学校・中学校教諭)	8
7	7/10 (土)	日米における会計・税法情報の調査手法 中田信正 (愛知工業大学大学院客員教授)	7
8	7/22 (木)	大阪市の公文書活動 / 岸田絹子 (武庫川女子大学)	11
9	8/21 (土)	書店マンが読む『電子書籍の衝撃』 / 福嶋聡 (ジュンク堂難波店店長)	16
10	9/11 (土)	NDL-OPAC のダウンロード : 特に学校図書館の実務に活用 孕石宏嗣 (元四天王寺国際大学)	14
11	9/30 (木)	女性情報と図書館 木下みゆき (大阪府立男女共同参画・青少年センター情報ライブラリー)	13
12	10/9 (土)	日本における学術情報流通 / 杉山誠司 (日本福祉大学)	13
13	10/21 (木)	情報資源組織化の実践 (民間 MARC) / 安川恵美 (桃山学院大学)	15
14	11/6 (土)	マーク・出版流通 松木暢子 (株式会社図書館流通センター データ事業部データ部長)	15
15	11/25 (木)	視覚障害者サービスの現状 / 福西敏文 (大阪市立盲学校司書教諭)	11
16	12/9 (木)	「アメリカ学校図書館基準」を考える 2 : 情報リテラシーと学校図書館サービス / 柳勝文 (龍谷大学)	13
17	1/8 (土)	フィクションに描かれた図書館のイメージ : 日本の最近の事例を中心に 佐藤毅彦 (甲南女子大学)	13
18	1/20 (木)	利用者とのコミュニケーション / 藤井兼芳 (中之島図書館)	7
19	2/17 (木)	情報リテラシーとメディアリテラシー / 志保田務	11
20	2/24 (木)	図書館業務における IC タグ導入 : 高槻市立図書館の場合 脇本初美 (高槻市立図書館)	16
21	3/12 (土)	情報資源組織演習の実践 / 杉本節子 (相愛大学)	11
22	3/24 (木)	図書館活用論の原則とは : 講座 1 年のまとめ / 志保田務ほか	12

年間出席者合計 266 名 (昨年比 +39 名)

平成 23 年度 (2011 年度) 図書館を学ぶ相互講座		協力：大阪府立中之島図書館	
1	4/9 (土)	イギリス児童文学と図書館 藤井佳子 (奈良女子大学非常勤講師、文学博士)	12
2	4/21 (木)	堺市立図書館における電子書籍の貸出 家禰淳一 (堺市立東図書館・日本図書館研究会研究委員・JLA 認定司書)	17
3	5/21 (土)	本は「モノ」としてある～紙の本と電子書籍～ 大本英二 (枚方市立中央図書館長)	15
4	6/4 (土)	図書館学教育部会 6 年の功罪 志保田務 (桃山学院大学名誉教授、前 JLA 図書館学教育部会長・常務理事)	13
5	6/11 (土)	「影響言語で人を動かす」を訳出、実行して 本山晶子 (桃山学院大学非常勤講師、プロスランゲージセンター代表)	13
6	7/2 (土)	国立国会図書館のレファレンスサービス戦略：レファ協 谷本達也 (羽衣国際大学准教授、 国立国会図書館レファレンス協同データベース協力委員)	16
7	7/21 (木)	児童文学を学び教えて 三宅興子 (元梅花女子大学教授、大阪府立国際児童文学館理事長)	13
8	8/6 (土)	選書ツアー：大学図書館コレクションづくりの可能性 月本一武 (宝塚大学図書館)	10
9	8/18 (木)	商工会議所と業界紙／義永忠一 (桃山学院大学経済学部准教授)	17
10	9/3 (土)	※9/3 (土)は台風警報発令により、図書館が臨時休館。館要請により「中止」 電子化における図書館サービス・ポリシー 杉山誠司 (日本福祉大学大学院事務部主幹、愛知淑徳大学非常勤講師)	中止
11	9/22 (木)	医学情報を提供するという事：大学図書館 中村恵信 (大阪府立大学羽曳野図書センター)	6
12	10/8 (土)	司書の醍醐味を日本で、ネパールで ：青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、多文化サービスの実践 山田伸枝 (元ネパール国立図書館運営アドバイザー)	17
13	10/20 (木)	図書館学の遠隔教育：放送と Web に携わって 志保田務 (放送大学客員教授、八洲学園大学非常勤講師、JLA 理事)	11

14	11/10(木)	さわる絵本がつなぐ子どもたち／小西萬知子（元大阪市立中央図書館）	15
15	1/19(土)	障害者とデジタル資料／立花明彦（静岡県立大学短大部准教授）	6
16	12/1(木)	図書館の空間を活かす／多賀谷津也子（大阪芸術大学図書館）	20
17	12/15(土)	学校図書館考／長倉美恵子（元東京学芸大学教授）	14
18	1/7(土)	海外の図書館よもやま画像／藤井兼芳（大阪府立中之島図書館）	9
19	1/19(木)	JLA 認定司書に挑戦して／谷口智恵（姫路市立図書館、JLA 認定司書）	8
20	2/4(土)	医療情報と患者情報／杉本節子（相愛大学准教授）	18
21	2/23(木)	チェニーとレファレンスサービス／前川和子（大阪大谷大准教授）	11
22	3/10(土)	「大図研を語る」 寒川登（大学図書館問題研究会大阪支部長、日本図書館研究会理事）	15
23	3/22(木)	図書館活用論の原則とは：講座1年のまとめ 志保田務（日本図書館研究会研究委員長、JLA 理事、図書館情報学博士）	19
年間出席者合計 292 名（昨年比 +26 名）			

平成 24 年度（2012 年度） 図書館を学ぶ相互講座		協力：大阪府立中之島図書館	
1	4/14(土)	「図書館サービス」と「図書館システム」 志保田務（図書館情報学博士）	13
2	4/26(木)	公立図書館における健康医療情報サービス／常世田良（立命館大学）	13
3	5/10(木)	情報の記憶装置・図書館 ～私たちが災害を忘れないために～ 村田修身（元大阪府立女子大学）	9
4	5/26(土)	電子化における図書館サービス・ポリシー ：電子書籍に図書館の貸出機能を組み込む／杉山誠司（大阪大谷大学）	19
5	6/21(木)	高齢者への図書館サービスについて／高島涼子（元北陸学院大学）	11
6	6/30(土)	図書館の専門職員制度／渡邊斉志（国立国会図書館関西館）	19
7	7/12(木)	中之島図書館のビジネス支援サービスについて 藤原紀恵（中之島図書館）	13
8	7/21(土)	看護教育における情報活用／中村恵信（神戸松蔭女子学院大学）	15
9	8/4(土)	論文作法、書評法：具体例から学ぶワークショップ／志保田務	18
10	8/23(木)	公立図書館の評価指標：登録関係数字を中心に 石橋進一（JLA 認定司書）	19
11	9/8(土)	ケンタッキー州の公共図書館と図書館学教育／山本貴子（大谷大学）	9

12	9/20(木)	図書館協議会と図書館活動 (1) / 中道厚子 (大阪大谷大学)	8
13	10/6(土)	図書館協議会と図書館活動 (2) / 藤井兼芳 (中之島図書館)	9
14	10/25(木)	大阪府立中之島図書館大阪室におけるサービス 小笠原弘之 (中之島図書館)	11
15	11/17(土)	図書館の利用を伸ばす接遇 / 明石浩 (福山市新市図書館)	12
16	11/29(木)	著作権法の新しい改正 / 南亮一 (国立国会図書館関西館)	12
17	12/8(土)	大学院での図書館情報学学習 / 嶋崎さや香 (京大大学院)	7
18	12/20(木)	大学における図書館に関する科目を教えて：情報サービス論 前川和子 (元大阪大谷大学)	7
19	1/10(木)	図書館テキストの挿絵を描いて / 向畑久仁 (画家・元姫路独協大学)	9
20	1/19(土)	学校図書館とメディア教育 / 大平睦美 (京都産業大学)	11
21	2/7(木)	典拠コントロールの周辺 ：近世舞台芸術作品に関する著者名の表示 (標目) の考察 月本一武 (宝塚大学図書館)	8
22	2/23(土)	大学における情報サービス演習：学生における達成・評価 高階時子 (武庫川女子大学)	15
年間出席者合計 277 名 (昨年比 -15 名)			

## 2. 協力事業から共催事業へ

耐震補強工事(工期 2013 年 4 月から 2014 年 12 月)実施に伴う館内諸室の配置換えのために、2013 年 3 月 11 日から 16 日まで、図書館は臨時休館した。3 階全域が工事対象となったため、北翼 3 階にあった自習室 (96 席) をふれあいルームに移設 (54 席) し、名称を変更した。このため、講座実施は困難になった。2004 年度から始まった、中之島図書館別館のサテライト教室事業は、当初、関西大学・神戸大学が実施、その後、神戸大学から大阪府立大学に代わって実施された。大阪府立大学も 2012 年度末で中之島図書館別館でのサテライト教室事業を終了し、難波の新サテライトへ移動したため、図書館別館に利用可能なスペースができた。ただし、図書館別館の管理主体は図書館ではなく、大阪府教育委員会 (2016 年 4 月以降は大阪府教育庁と名称変更) 地域教育振興課となっており、図書館別館 2 階講義室は、中之島図書館の事業 (図書館単独、もしくは図書館共催) としての利用は可能だが、協力事業での利用は不可であるため、事業実施を、「協力」から「共催」実施に調整・変更、実施回数についても見直しを行い、月 1 回の開催とした。

平成 25 年度（2013 年度） 図書館を学ぶ相互講座 ※1、2 は図書館を学ぶ相互講座で単独実施 ※3 以降、中之島図書館と共催実施			
1	5/25(土)	中央公会堂第 7 会議室 午前 10～12 時 / 志保田務（主宰者） 「図書館相互講座で学ぼう」 この講座 4 年間の成果を振り返り、新年度計画を検討し、併せて新刊『図書館サービス概論』（学芸図書）、『情報資源組織法演習問題集』（第一法規）、『情報資源組織論』（ミネルヴァ）の用法を、大阪大谷大学・杉山誠司教授を交え検討。 なお、集会後、前川和子氏、杉本節子氏、川崎秀子氏の記念昼食会も開催。	27
2	6/29(土)	中央公会堂第 8 会議室 午前 10～12 時 大阪府立高校学校図書館はどうなる？ 大阪府立高校の図書室についての事例研究。 市村美保子（大阪府立大正高校学校司書） 林まさ子（元大阪府立泉尾高校学校司書）	22
3	7/27(土)	新しい自治体史・歴史資料のデジタル化と公開方法 堺市史と石川県史のデジタル化の例を紹介。 田山健二（TRC-ADEAC 株式会社代表取締役）	15
4	9/14(土)	電子書籍と浄土教典籍目録（解題目録）の作成から 川崎秀子（佛教大学非常勤講師）	12
5	10/12(土)	YA サービスの日米露比較／漢那憲治（龍谷大学教授）	15
8	10/12(土)	何のために図書館利用者は不満をとнаえるのか／呉東根（啓明大学）	15
6	11/9(土)	学校図書館職員問題の沿革と現代 世羅田順治（大阪府立東淀川高校教諭）	14
7	12/14(土)	街づくりに生きる高齢者の図書館利用 鈴木幾多郎（桃山学院大学名誉教授）	21
8	1/18(土)	ビジネス支援サービスにおける連携事業（事例紹介） 安達明子（大阪府立中之島図書館）	16
9	2/8(土)	生涯学習と図書館協議会／中道厚子（大阪大谷大学教授）	14
10	3/15(土)	中之島図書館大阪室における活動／乾ゆかり（大阪府立中之島図書館）	13
年間出席者合計			184 名



平成 26 年度（2014 年度）図書館を学ぶ相互講座			共催：大阪府立中之島図書館
1	4/12(土)	アメリカ西南部図書館見学報告／志保田務（主宰者）ほか	22
2	5/10(土)	著書『図書館実習 Q&A』を活かして 前川和子（大手前大学教授）、中道厚子（大阪大谷大学教授）ほか	21
3	6/7(土)	(1) IFLA 多文化分科会とアジア図書館 (2) アジア図書館について 深井耀子（相山女学園大学名誉教授） 坂口勝春（アジア図書館事務局長）	19
4	6/7(土)	著書『諭吉の愉快と漱石の憂鬱』を巡って 竹内真澄（京都自由大学理事長、桃山学院大学社会学部教授）	17
5	7/5(土)	ボランティアを軸とした活動とその育成 北西英里（大阪府盲人福祉センター司書）	15
6	7/5(土)	英和辞書の編纂：用例探索の苦心を中心に 三宅亨（桃山学院大学経営学部教授：英語学・ビジネス英語担当）	14
7	8/2(土)	図書館史再考／原田安啓（近大姫路大学教授）	21
8	8/2(土)	図書館関係“認定”瞥見「IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験」 高野真理子（大学図書館支援機構）	17
9	9/13(土)	障害者差別解消法と図書館／立花明彦（静岡県立大学短期大学部准教授） ※日本図書館研究会図書館サービス研究グループ（以後、図書館サービス研究グループと略記）と共催	14
10	9/13(土)	海外図書館近況：米西南部、韓国／常世田良、中村恵信、志保田務ほか	19
11	10/11(土)	韓国文献情報学の最近の動向・韓国の図書館事情 ：韓国十進分類法の最新版編纂にも言及 呉東根（啓明大学校文献情報学部長） ※図書館サービス研究グループと共催	15
12	11/15(土)	増える図書資料にどんな手を打つのか：保存と開架 坂口勝春（アジア図書館） ※日本図書館研究会第 309 回研究例会	18
13	12/20(土)	ADA（Americans with Disabilities Act：アメリカ障害者差別禁止法：1990 年連邦法）制定後の図書館サービスの進展 ：我が国における障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号、障害者差別解消法）：施行をにらんで 立花明彦（静岡県立大学短期大学部准教授）	20

14	1/17(土)	超高齢化の社会デザインと公共図書館の力 鈴木幾太郎 (桃山学院大学名誉教授)	10
15	2/14(土)	重要文化財・賀茂禰宣神主系図デジタルアーカイブ化の現状と大学図書館への期待：MLA 連携の観点から／月本一武 (宝塚大学 宝塚図書館)	13
16	3/14(土)	新しい図書館を作る／常世田良 (立命館大学)	23
年間出席者合計			278 名

平成 27 年度 (2015 年度) 図書館を学ぶ相互講座		共催：大阪府立中之島図書館	
1	5/16(土)	NDC10 版によるテキストの修正案の提示と NCR 新版の改訂状況の瞥見 志保田務	17
S	5/23(土)	「地域、特に公共図書館と大学の連携：試論」 ※生涯学習と高等教育：大学機能の障害学習への活用、その模索 (桃山学院大学 2015 年度協同研究プロジェクト 15 共 248(代表 三宅亨)) 志保田務	16
2	6/20(土)	情報検索資格とその活動域：INFOSTA の情報検索試験を中心に 都築泉 (元大阪工業大学、理学博士)	14
3	7/18(土)	イスラムをその図書館を通して考察する／原田安啓 (近大姫路大学)	11
4	8/8(土)	フランシス・チェニーの魅力発見：日本に図書館サービスを伝えた人 前川和子 (元大手前大学) ※図書館サービス研究グループと共催	15
5	9/12(土)	総合テーマ「高槻市立図書館の挑戦」 ・これからの図書館：高槻市立中央図書館ミュージズ子ども分室 (関西大学児童図書館) に触れて ・JLA2014 年度米国アリゾナ州研修から 尾山由佳 (高槻市立図書館) 片桐由美子 (高槻市立図書館) ※図書館サービス研究グループと共催	14
6	10/31(土)	フルブライト留学記：アメリカ図書館学の資産 長倉美恵子 (元東京学芸大学)	17
7	11/28(土)	アメリカ中西部図書館訪問記 山田美雪 (兵庫県立大学) 石井莉乃 (大学図書館司書)	13
8	12/26(土)	杉山教授の電子書籍研究／家禰淳一 (堺市立中央図書館) ※図書館サービス研究グループ・図書館資料保存研究グループとの共催	20

9	1/23(土)	日本の公立図書館、これから／常世田良（立命館大学） ※図書館サービス研究グループと共催	26
10	2/20(土)	本間一夫生誕百年 新発掘の“本間ノート”等に見る日本盲人図書館構 想と創設準備／立花明彦（静岡県立大学短期大学部） ※図書館資料保存研究グループと共催	12
11	3/26(土)	つなぎひろげる生涯学習と図書館：新テキストの完成を基盤に 中道厚子（大阪大谷大学） ※図書館サービス研究グループと共催	10
年間出席者合計			185名

### 3. 施設管理が指定管理に変わって

2016年4月1日より、中之島図書館の施設の管理運営に、指定管理者制度を導入。図書館別館2階講義室は、有料での貸室業務も開始され、名称も「多目的スペース3」に変更された。図書館主催の講座、講演会等での同室の利用もあらかじめ調整した回数となった。共催実施してきた相互講座も、この回数の中に組み込みが認められ、継続実施（2016年度は、毎週第3土曜日午前12回の枠組み）できることとなった。

また、定期的に共催にて実施してきたこともあり、中之島図書館ホームページ（トップページ）に、「図書館を学ぶ相互講座」Web ページへのリンクがつけられたバナー設置が認められ、実施内容の確認等が容易になった。ちなみに、「図書館を学ぶ相互講座」Web ページは、2017年3月現在、<http://www.library.pref.osaka.jp/site/nakato/seminar-lib.html> のアドレスにて公開している。

平成28年度（2016年度）		図書館を学ぶ相互講座	共催：大阪府立中之島図書館
1	4/6(土)	NCR 新版の改訂状況瞥見と NDC10 版新版を容れた改訂『情報資源組織論』関係テキストの検討、授業展開の一試案 志保田務（図書館を学ぶ相互講座主宰者）	17
2	5/28(土)	図書館史料の间歇に関する一検討／園田俊介（津島市立図書館） ※日本図書館研究会第320回研究例会 ※図書館資料保存研究グループと共催	20
3	6/18(土)	石塚栄二、自宅内図書館史料その他の記録と保存についての検討 志保田務（図書館情報学博士） 中村恵信（神戸松蔭女子学院大学） 山田美雪（兵庫県立大学） 石井莉乃（大学図書館） ※図書館資料保存研究グループと共催	18

4	7/16(土)	国際発表への挑戦：アジア環太平洋図書館情報学会への架け橋 柳勝文（龍谷大学） ※図書館サービス研究グループと共催	15
5	8/20(土)	デジタル・ネットワーク社会における図書館経営 ：図書館実務を大学院研究に繋いで／家禰淳一（奈良大学） ※図書館サービス研究グループと共催	15
6	9/17(土)	IFLA 学校図書館ガイドラインと世界の学校図書館 大平睦美（京都産業大学） ※図書館サービス研究グループと共催	16
7	10/15(土)	ハンセン病と図書館／立花明彦（静岡県立大学短期大学部） ※図書館サービス研究グループと共催	14
8	11/19(土)	大日本教育会による図書館設立活動／嶋崎さや香（大阪樟蔭女子大学） ※図書館資料保存研究グループと共催	14
9	12/17(土)	21 世紀の図書館職員養成：アメリカとオーストラリアを事例に (1) アメリカ篇／大城善盛（元同志社大学） ※図書館サービス研究グループと共催	13
10	1/21(土)	情報資源組織演習教授法自主研修会の試み／前川和子（大手前大学） ※図書館サービス研究グループと共催	21
11	3/18(土)	「図書館を学ぶ相互講座」を顧みて ～中之島図書館の行事につながって 8 年の歩みと展望 藤井兼芳・志保田務	予 定
年間出席者合計 163 名（3/18 の参加者数は含まず）			

#### 4. あとがき

耐震工事や運営方針の変更により、場所や時間や形を変えつつ実施してきた相互講座も、今年度で 8 年目になり、年度末での延べ参加者数は 1900 人程度と予想される。参加者数もさることながら、たくさんの方々の協力で相互講座を実施することができていることを感謝したい。また、講師や参加者の中には、この間に鬼籍に入られた方もおられる。ご冥福を祈りたい。

紀要掲載の年表であれば、内容や検証について記すのが本来であるのかもしれないが、現在も相互講座は継続中であり、その詳細は当館および「図書館を学ぶ相互講座」関係のホームページでも見ていただくことができるため、今回はとりあえずの記録として記し、総括はもう少し先のこととしたい。